

新年明けましておめでとうございませす。旧年中は、能登町の皆様には暖かい御支援と多大なご協力を頂きましたことを心よりお礼申し上げます。本年も引き続き、皆様とともに協働のまちづくりを念頭に、町民の幸せのために邁進する所存です。

昨年は北陸新幹線金沢開業や連続テレビ小説「まれ」の放送などで石川県能登が大いに脚光を浴びました。昨年の4月からインターネットでも手軽に手続きができるようになったふるさと納税では1万件近く、1億円を超えるご支援がありました。自然豊かな能登町が生み出した特産品の返礼品が大好評で、予想を大きく上回るご寄付を頂いたことに驚くとともに、全国に町のファンを拡大でき喜んでおります。

さて、町では「海、山、祭、いいとこいっぱい能登町」をキャッチコピーとし、町のPRを行っております。このうち海と山につきましては、平成23年に世界農業遺産として日本で初めて、能登の里山里海が認定されております。そして祭は、昨年の4月に文化庁が新設した日本遺産に、能登のキリコ祭りが「灯り舞う半島能登く熱狂のキリコ祭り」として認定されました。私たちが先祖から受け継いできた自然・文

化が世界に誇れるものであるとお墨付きを得たわけでありませす。先祖から子孫へと引き渡す、その間で我々は生活しております。受け継いでくれる次世代のために、若い世代の希望がかなう、暮らしやすい町としていかなばなりません。

国では、一昨年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、これをうけて、昨年の10月に「能登町創生人口ビジョン」と「能登町創生総合戦略」を策定いたしました。人口減少に歯止めをかけ、まちの活力を取り戻すことが最重要課題であります。

そして、町の最上位計画である「能登町第一次総合計画」が今年度末をもって目標年次となることを受け、今年4月からの10年間を計画期間とする「能登町第二次総合計画」を策定いたしました。能登町の明日を担う人材を育成するとともに、若者の流出を抑止し、能登町で元気に働くことができる雇用の場を確保するため、「能登の里山里海」に育まれた第一次産業を魅力ある産業として発展させていくとともに、観光産業などで創業支援を行い、若者などが職業を選択できる環境を整えていきます。町のさらなる発展に向けて、戦略的かつ効果的な施策・事業

を「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来へつなぐまちづくり」を基本理念とし、全力で取り組んでまいります。

昨年3月に、能登町が誕生して10周年を迎えました。この間、決して平坦な道のりではありませんでしたが、町民の皆様との協働で乗り越えてまいりました。

本年は、町村合併時からの懸案でありました新庁舎建設をはじめ、能登消防署宇出津分署の建設、宇出津新港に計画しております水産物鮮度保持施設・水産物加工処理施設の建設や老朽化が著しい衛生センターの全面改修などの大型事業に取り組みたいと考えております。

町民、議会、行政の協働はもちろんですが、町民一人一人が町の未来を考え、行動することによって、町に活力が出てくるものと思ひます。

私も、取り組むべき施策に対し、町にとつて何が一番大切か、どのような方向が町にとって一番良いのかを常に考え、行動してまいります。

町民の皆様の日頃の町政へのご協力、ご理解に心から感謝申し上げますとともに、本年が皆様にとりまして幸福な年となりますようお祈り申し上げます。まして、年頭のご挨拶といたします。

謹賀

新年

能登の里山里海にも清らかな新風がそよぎ、凜とした初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には日頃より議会活動にご理解ご協力を賜り、改めて心からの感謝を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、年初の1月9日に「まち・ひと・しごと創生総合戦略等」の説明会で石破大臣が発言された

『地方創生が日本再生の鍵』
『やる気のある地域に最大級の支援』
『ここまで国力を付けてくれた先人に恥ずる事のないように共に働きたい』

こんな言葉に特に触発されて行動した一年であったように思われます。

町では、これに呼応するかのようにな能登町創生総合戦略推進会議を開き、地域戦略推進室やワーキンググループを内部機関とする「能登町まち・ひと・しごと創生本部」を設置されました。一方、能登町議会でも町民の皆様

熱い思いに込め、全国でも議会が設置している例は少ないようでしたが、県内でもいち早く「まち・ひと・しごと創生特別委員会」を全議員を委員として3月定例会議で設置しました。そして、もつと実践的な活動をするために「ひと分科会」「しごと分科会」の2つの分科会も組織しました。

それ以来、現行事業の検証を手掛けたり、漁業関係の皆様や農業団体の方々の現場の声を聞かせて頂く意見交換会等を重ねました。9月には内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局を訪ねて官僚の方から、より核心に近い情報を得たいと研修を受けて来ました。

更には、12月9日に株式会社NHKエンタープライズ、エグゼクティブプロデューサー、井上恭介氏に来町願いの4階ホールで自著書の『里海資本論』などを中心に講演して頂きました。

『地方創生』はこれからも外すことの出来ない4文字であると思ひます。

現在世界で15ヶ国、36地域しか選ばれていない世界農業遺産に佐渡と共に日本で一番早く認定された能登……

文化庁が昨年創設した日本遺産に「灯り舞う半島、能登く熱狂のキリコ祭り」として認定された能登……

能登の米は、野菜は特別美味しい……。能登の魚介はイカもブリも一番だ……。キリコ祭りは能登人の心意気だ……

本年は、先ず私達自身が「ふるさと自慢」を心掛ける一年にしましょう。可能性は無限にあると信じます。

結びに、本年が健康で幸多い一年となりますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



能登町議会議長
鍛冶谷眞一



能登町長
持木一茂

海の生活を学び、親しみ、ふるさとに対する誇りを育む

小木小学校 里海科

能登町の学校では、地域性を生かした授業を行っています。今年度始まった小木小学校での海洋教育「里海科」授業と、必修の中学武道種目に相撲を採用した能都中学校の取り組みを紹介します。

能登町の特色ある教育

能登は名力士を育んだ地。相撲から、礼儀と思いやりを学ぶ

能都中学校 相撲授業



ウニの授精の様子を観察し、生命の大切さを学ぶ（5年生）

金沢大・青木賢人准教授による津波授業（全学年）



体育館に敷かれた土俵マットの上で礼を学ぶ

授業時間数と主な活動

学年	科目	年間授業時間数	主な実践例
1	生活科	里海活動 12時間	<ul style="list-style-type: none"> 海洋ふれあいセンターで海辺の自然とふれ合う 海岸清掃 海藻の押し花づくり
2		里海活動 15時間	
3	総合的な学習の時間	里海活動 19時間	<ul style="list-style-type: none"> とも旗祭りについて地域の人にインタビューする 海岸漂着物で作品をつくる ヤドカリを飼育する
4		里海活動 19時間	
5	里海科	35時間	<ul style="list-style-type: none"> 水産業について調べる ウニの発生を通じ、生命のつながりや大切さを感じる
6		35時間	

小木小学校では身近な海に親しみ、地域に対する誇りと愛着を育むことを目標に「里海科」を設けています。小木地区は全国有数のイカの水揚げ量を誇る漁業の町で、海と生活が密着していますが、児童たちが海にあまり関心を持っていないという課題がありました。

里海科を始めとする海洋教育推進事業では、①海に親しみ②海を知り③海を守り④海を利用する―ことを軸に、海洋国家である日本を支える人材育成を目指しています。このため、能登里海教育研究所や金沢大学環日本海域環境研究センター、のと海ふれあいセンター、地区住民から協力を

得て、海に関する体験授業を積極的に実施しています。海の祭り「とも旗祭り」について学ぶため住民を講師に招いたり、地域イベント「イカす会」の参加、漁業調査船の体験乗船でイカ釣り漁を見学したりするなど、地域から多くのことを学びました。

保護者からは「家族が漁師でも仕事の内容を知らなかった。小木がイカの町として知られるようになったのが漁師の人たちのおかげだとわかったようだ」など、児童の成長に肯定的な意見が寄せられました。

今後は授業計画の系統立てや、教師の専門性を高めるなど、さらに教育の内容充実に努めることにしています。

能都中学校では武道の授業に、県内で初めて相撲を採用し、11月から1年生に対する授業を始めました。中学校での武道は平成24年度の学習指導要領改訂で必修化されましたが、県内では柔道と剣道だけが実施されてきました。能都中では20時間の計画で授業を行うことにしています。能都中の蟹豊文校長は、「授業を通じて日本の国技・相撲を身近に親しんでほしい」と期待を寄せます。

能都中は、元十両丹藏の寺下隆浩さんを始め、多くの大相撲力士を輩出しています。授業には町相撲連盟の志茂長一郎副会長が協力し、塵手水や蹲踞などの所作から、四股やすり足などといった基本



生徒に胸を貸す松浦さん

動作を重点的に教えています。

授業ではまわしのかわりに「相撲パンツ」を着用しています。ベルトがついているため実戦で技がかけやすい上、体操服の上から素早く着用できるため、限られた授業時間を有効に使うことができます。当初は、女子には抵抗感があるのではないかと心配がありました。授業を始めてみると、生徒は楽しそうな様子で取り組んでいました。

12月7日には、県の招きで来校した、第5回アジア女子相撲選手権軽量級王者の松浦みな美さんが授業に参加、生徒はトップアスリートに胸を借り、練習に励みました。

「強い相手でも、必ず勝つことができる」と思い競技を続けています」と話す松浦さん。「一瞬の勝負で体格の大きな相手に勝つことができる魅力ある競技なので、多くの子どもたちに楽しんでほしい」と、相撲での生徒の成長に期待を寄せていました。



県の漁業調査船「白山丸」でイカ釣りの様子を見学する児童たち

故郷の伝統に触れる一日

石川県人会郷土訪問 「あえのこと」を見学

県出身者で構成される「石川県人会」と「のと里山空港応援隊」の約20人が12月2日、郷土訪問旅行で能登町を訪れました。空路で能登に到着した一行は笹川の内平美術館を見学したあと、柳田植物公園の合鹿庵を訪問し、あえのことを実演している上町の中正道さんによる神事の解説に耳を傾けました。12月5日と2月9日に行われるアエノコトは、ユネスコの世界無形文化遺産に登録されているほか、能登の里山里海を象徴する行事として注目を集めています。会員らは写真を撮影するなど、熱心に実演を見守りました。



中さんの解説に耳を傾ける県人会メンバー

柳田植物公園を日本一の名所に

のとキリシマツツジ 280本を植樹

町は柳田植物公園を日本一ののとキリシマツツジ園にしようと、平成27年度からの4年計画で苗木を植えることにしています。12月1日には280本の苗木が植えられました。

作業にはのとキリシマツツジの保護と普及にあたるNPO「のとキリシマツツジの郷」の会員など15人が参加しました。レストランから見渡せる斜面は遊歩道や散水のための水道などが整備されています。すっかり紅葉した高さ50センチほどの苗木を植えたほか、竹の支柱を立てて縛り、雪への対策も完了させました。



第二次能登町総合計画策定

今後10年間のまちづくり指針 総合計画審議委員会から町長に答申

町の新しいまちづくりの総合的な指針となる第二次総合計画案が、11月20日に町総合計画審議会の角弘子会長から町長に答申されました。この計画は第一次総合計画が今年度末に目標年次となることから、平成28年度からの10年間の計画を策定するもので、総合計画審議会で審議が進められてきました。答申を受けた持木町長は、議会12月定例会議に基本構想を提出しました。

今後、基本目標として掲げた「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来へつなぐまちづくり」の実現に向け、各分野別施策や個別事業の詳細計画を立案・実践して、まちづくりを推進します。第二次総合計画は3月に冊子として取りまとめられます。



答申書を手渡す角会長

消防職員意見発表会

須磨消防士が見事優秀賞に輝く

県消防学校で12月3日、県消防職員意見発表会があり、奥能登広域圏代表として出場した能登消防署柳田分署の須磨翔太郎消防士が最高賞の優秀賞に輝きました。須磨さんは地域住民による救命救急への備えを促すため、救急車の所要時間に応じて色分けされた「救命ハザードマップ」を作成しました。

須磨さんは県代表として、4月に行われる全国消防長会東近畿支部消防職員意見発表会に出場します。



自作のハザードマップを手に意見を発表する須磨さん

県消防団活動発表会・子ども女性防火委員会

豊若さん(髯)に活動発表会敢闘賞、 松波保育園幼年消防クラブが優良クラブに

平成27年11月29日、内灘町文化会館で開かれた第13回県消防団活動発表会で、白丸分団の豊若幸介班長が「皆さんなら、どうしますか？」と題し発表し、敢闘賞を受賞しました。また、日ごろの防火活動が評価され、松波保育園幼年消防クラブが優良クラブとして表彰されました。



女性防火クラブ・酒元法子会長と松波保育園幼年防火クラブの代表



活動発表会敢闘賞に輝いた豊若さん

「能登の魅力発信が必要」 里海資本論・井上さん講演

地域創生について考える講演会が12月9日、役場能都庁舎で開かれ、約250人が参加しました。藻谷浩介さんと共に「里山資本主義」を提唱した、株式会社NHKエンタープライズの井上恭介さんが、「地元の人自信を持って、地域の魅力を自慢することが大切」と話しました。

町議会まち・ひと・しごと創生特別委員会が主催したもので、訪れた人は地域おこしのヒントを得ようと、熱心に耳を傾けていました。



消費生活トラブル対策

マイナンバーに関する不審電話、メールに注意 職員が訪問や電話で手続を行うことはありません

マイナンバー制度に便乗した不審な電話に関する相談が増加しています。口座番号を聞き出そうとしたり、個人情報削除を持ち掛けたりするなどの不審電話のほか、「あなたのマイナンバーが漏えいしている」などと、別のサイトへ誘導する不審なメールの事例もあります。送付者が明らかなものを除き、安易に開封せず、記載されているアドレスにアクセスしたり、相手に連絡を取ったりしないでください。

マイナンバーの通知や利用手続き等で、国や自治体、その他公的機関の職員が家族構成、資産や年金・保険の状況、口座番号などを電話などで聞くことはありません。不審な電話はすぐに切り、来訪の申し出があつても断ってください。マイナンバーに関して、行政機関を名乗る者が自宅を訪問したり、電話をかけたことはありません。

また、マイナンバーカード発行やセキュリティ対策に関して、代金を請求されることはありません。カードの取得は無料です。

わからないことや不安なことは、一人で悩まず相談を！

- ・ふるさと振興課 ☎ 62-8532
- ・奥能登消費生活相談室 ☎ 0768-26-2307
- ・県消費生活支援センター ☎ 076-267-6110
- ・消費者ホットライン 局番なしの☎ 188